第13回 奈良学園大学登美ヶ丘カレッジ開催のご案内

自宅介護のキラッとエッセンス

奈良学園大学
看護学部
看護学科
佐藤 郁代 先生

介護保険制度が制定されて20年を超えました。この約20年、高齢化率は進展を続け、介護や支援を必要とする人の数は2.5倍に増加しています。介護保険制度で受けられるサービスの種類は「居宅サービス」「施設サービス」「地域密着サービス」と細分化され、複雑です。

本講座では、介護保険の申請と審査、介護支援専門員（ケアマネージャー）、それから、デイサービスの実際などについて、地域看護の視点からお話ししたいと思います。

開催予定

日時：2023年4月15日（土）14:00～15:30
場所：奈良学園大学 1号館 1409教室
定員：30名

※ソーシャルディスタンス・換気・消毒の徹底等、感染防止対策を行います。
※教員だけでなく学生も参加します。

こちらから
申込みください。

第13回登美ヶ丘カレッジ
申込フォーム

ニューズレター第8号　編集後記ご挨拶

奈良学園大学が奈良市登美ヶ丘にワンキャンパスに統合されて、1年が経とうとしています。

ここにきて、近隣の市町村関係機関とのさらなる結びつきが強くなってきています。

12月には、新たに生駒市との連携協定調印がなされました。1月には、「産官学懇談会」が開催され、奈良市、生駒市、三郷町の教育長はじめ関係の皆様及び代表学生から、令和3年度のエビデンスにもとづいて振り返り、「令和4年度白書」として今後の課題解決に向けた意見交換もして頂きました。

さらに、今回の第8号に寄稿頂いた「けいはんな学研都市」とは、本学からも「けいはんなView」（広報誌）へ寄稿させて頂くという双方向の情報発信となっています。

これは、「Pass the baton～けいはんな大学生View～」学生がつたえる、つなげる、学生の取組です。人間教育学部生が保健医療学部の地域連携の主な取組を取材した2ページの企画と記事でした。そして、同志社女子大学からバトンを受けた奈良学園大学から、次号は奈良女子大学へつないでいく予定とのことです。

今後もニューズレター及びHP等でも学生の活躍を見守り応援して頂けると幸いです。

奈良学園大学
社会・国際連携センター長
善野 八千子

発行 奈良学園大学
社会・国際連携センター
〒631-8524 奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1
TEL：0742-93-5405　FAX：0742-95-9850

奈良学園大学
NARAGAKUEN UNIVERSITY

ニューズレター

Vol.8
Newsletter
2023年2月発行

第11回奈良学園大学登美ヶ丘カレッジ開催

令和4年12月4日（日）は、本学保健医療学部リハビリテーション学科 飯塚照史教授が講師を務め「手のケガ・病気と作業療法」をテーマに公開講座を開催しました。

日常生活の中で手を使う場面は多くありますが、それを意識することはなかなかないと思います。しかし、いったんケガや病気でうまく動かなくなったりすると、多くの困りごとが出てきます。これを、機能と生活の面からサポートし、回復させていくのが作業療法士の役割のひとつになっています。今回のお話の中では、義手を使ってバイオリンを弾く方や、生まれつき腕が短くても大好きなレコーダーを吹き吹奏楽部で活躍する方、事故で手指を失ったのちに作業療法で物をつかむ事が出来るようになった方などを紹介しながら、手の回復を通じて生活を創る作業療法についてお話しました。また、スマートフォンの使用と手の困りごとや、加齢に伴い発生しやすくなる手の疾患として、関節症や腱鞘炎、神経の障害などをお伝えしました。特に親指の根本が痛くなったり、脱臼を起こす関節症（CM関節症）については、予防的意義のある体操（ならがく・ゆび体操）を紹介しました。手のひらの中にある細かい筋肉を動かすことを目的としており、筋力改善とともに“むくみ”を軽減する効果も期待できるものですので、また機会があればお示ししたいと思っています。

作業療法士が提案する“手のお困りごと”の支援が、皆さんの健康に資することを願っています。

奈良学園大学周辺の紹介
けいはんな学研都市

けいはんな学研都市を紹介いたします。
原稿は、関西文化学術研究都市推進機構
常務理事・事務局長 河合 智明 様 からいただきました。

正式名称は「関西文化学術研究都市」。とても固く、長い名前なので、「けいはんな学研都市」と覚えてください。けいはんな学研都市は、約半世紀前に人類社会の課題を解決するための科学・技術の新領域の研究開発、新しい文明のあり方を探求する目的で都市建設が提言され、建設が進められてきたサイエンスシティです。

国が法律に基づいてサイエンスシティを建設したのは、東の筑波研究学園都市とけいはんな学研都市だけです。けいはんな学研都市には、現在150を超える学術研究に関わる大学、研究機関、企業が立地しています。新しい技術を社会に実装していくための実証実験も5年間で約460件実施されるなど、新技術の実験都市としての一面もあります。

2025年大阪・関西万博を契機に、未来社会を体感できるイベント（仮称）けいはんな万博を準備検討中です。奈良学園大学の研究成果や新技術、学生活動も「未来社会への解」として訪れる人達に示し、世界へアピールしたいと思いますので、引き続き連携・共創していきましょう。

地域の皆様へのご挨拶

奈良学園大学
保健医療学部
リハビリテーション学科 教授
辻下 守弘

奈良学園大学保健医療学部リハビリテーション学科は令和元年(2019年)4月に開設し、本年3月には第1期生が卒業し、国家試験に合格すれば理学療法士あるいは作業療法士として社会で活躍することになりました。これもひとえに 地域の皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。特に、第1期生は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行前の入学であり、大学祭や登美ヶ丘わいわいフェスタなどのイベントで地域の皆様と交流させて頂くことができました。今後、わが国もCOVID-19による人的交流の規制が緩和される方向性に進んでいると思われ、本学科の教員と学生は地域の皆様と交流できることを楽しみにしております。また、令和5年4月からは、奈良学園大学大学院看護学研究科に加えて、新たにリハビリテーション学研究科が開設されることになりました。本学科の教員が持つリハビリテーション学の最新知見を地域の高度専門職育成だけでなく、地域の皆様の健康増進にも貢献できるように研究を進めていく所存です。今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

奈良学園大学の教員紹介

奈良学園大学 人間教育学部 人間教育学科
岡村 季光 先生

私は、教員・保育者養成に関わる心理学並びに教育相談科目を担当しています。授業では、常に具体例を出しながら、日常生活や現場と授業内容が受講生の頭の中で繋がるよう心がけています。研究では、“居場所”の問題に強い関心を寄せています。特に、ひとりで過ごす“居場所”と他者と過ごす“居場所”それぞれにどのような意味があるのか、アンケート調査研究により明らかにしていきたいと考えています。

奈良学園大学 保健医療学部 看護学科
松村 あゆみ 先生

私は地域・在宅看護学領域で保健師に必要な講義や実習を担当しています。研究は「ヘルスリテラシー」というテーマで疾病予防や健康づくり、ストレスマネージメントを中心に取り組んでいます。特に看護学生のヘルスリテラシーに関心があります。その理由は将来、看護職として患者さんや利用者さんへ質の高いケアを提供していくためには看護学生時代から自身の健康管理を行うことが重要であると考えるからです。またアロマオイルを使った補完代替療法や心の健康についても教育活動に取り入れております。健康づくりや心の健康についてのご質問がありましたらお気軽にご相談ください。どうぞよろしくお願いいたします。

奈良学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科
滝本 幸治 先生

私は病院・高齢者施設等で理学療法士として勤務したあと、理学療法士・作業療法士養成校の教員になりました。当初、勤務していた病院には圧倒的に高齢の方が多く、入院・通院・訪問というさまざまなリハビリテーション提供機会を通して、よりよい生き方／逝き方について考えるようになりました。
現在は、健康な心身を守り保つための「予防」に着眼しています。フィールドワークを通して転倒リスクや認知機能低下などのサインを早期に発見するための評価手法の開発や、それらを自治体事業に実装するための取り組みなどを行っています。

卒業生からのメッセージ

奈良学園大学
看護学部
看護学科
一期生
奥田 華子 さん

私は、一期生として卒業をし、奈良県内の病院に助産師として就職しました。社会人に慣れることから始まりましたが、今は後輩指導にも携わっています。指導するためには自分自身の知識・技術が十分でなくてはならず、5年目になっても勉強の日々です。

産婦人科病棟は、看護の対象が胎児から高齢の女性の方まで幅広く、生と死を体験することで沢山の感情があり、学ぶことも多々あります。一方、忙しさから患者さんに寄り添えず悔やむ時もあります。日々の業務に追われて、助産師を目指し始めた気持ちを忘れることなく、助産師として将来やりたいことを見つけられるよう沢山の経験を積んでいきたいと思っています。

在学生からのメッセージ

奈良学園大学
保健医療学部
リハビリテーション学科
2回生
中島 綾音 さん

私の目標は、患者さん一人一人に寄り添い最善のリハビリを行うとともに患者さん自身が抱えている不安や悩みといった精神面にもいち早く気づきサポートができる理学療法士になりたいです。そのために最新の技術や知識を勉強することはもちろん必要となってきますが、それに加えコミュニケーション能力をさらに高められるようにしたいです。奈良学園大学では授業の中でプレゼンをしたり、グループで一つの考えを出しまとめるといったことも多くの科目で取り組んでいます。このような場面からどれだけ自分の意見を周りにわかりやすく伝え、説明できるかどうかが将来に向けての今が練習であると考えます。ここでの学びが今後の糧になるので、発揮できる場所を作るためにも国家試験合格に向けて仲間と共に励んでいきたいと思います。

世界の健康課題としての『災害』

訓練の意義と看護職者の役割
―「奈良県総合防災訓練」へ参加して―

10月23日、看護学科 堀内ゼミの4年生5名は3年ぶりに開催された奈良県総合防災訓練に奈良県看護協会の災害支援ナースの皆様と共に参加しました。災害は、人々の安寧な生活と健康を脅かすことから世界の健康課題のひとつに位置付けられています。また「防災・減災」は、「誰一人取り残さない」というSDGsの視点でも重要なテーマです。

災害現場を再現したエリアでは、自衛隊の救助隊や災害派遣医療チーム(DMAT)が救助における連携訓練がおこなわれていました。避難所では、避難されている住民を訪問し情報を収集、奈良県看護協会の災害支援ナースをはじめ、医師会や日本赤十字の医療チーム他、理学療法士、薬剤師、災害時要配慮者(高齢者や障害者、子供など)に対する福祉支援をする専門職チーム(DWAT)と情報共有し、介入の必要性について意見交換をしていました。初めて顔を合わせる方々とのチームビルディングや救助用ヘリの離発着音が轟く中で、必要な情報を簡潔かつ正確に伝えるのは大変難しく、訓練を通した経験の大切さを実感しました。

堀内ゼミでは、実習中の3年生を除く全員で、学園祭の模擬店に『ワールドマーケット』を出店、昨年夏の大洪水で大きな被害を受けたルワンダの復興支援やタリバン政権下で困難を極めているアフガニスタンの女性の自立支援など目的として、現地のコーヒーや手芸品をNPOから預かり販売し、その売り上げを全て寄付しました。専門家としても地球の構成員としても、グローバルに社会に貢献できる!を目指しています。